

同志上谷君は死んだ。前途春秋多き彼は死んで身の潔白を示さうとしたのだ。あゝ尊き死の勝利！これは労働運動者のみが持ち得る美しい情操である。  
 金のために主義を賣らなかつた彼の雄々しき態度は後の世の労働者に多大の刺戟と感銘とを與へるであらう。十九歳の青年上谷君の死は決して無意義ではなかつた。

(遺書)

神戸五萬の罷工

労働者諸君へ

(死に面して)

上谷清逸

諸君よ。私は知らずに貰つた金の爲め主義を賣り、友を賣り、理想までも屈げなければならなくなされた。私の立場を悲觀して又今の場合をのがれる道も無く、私は死を選びます。指の負傷手當金だと思つたのが、私を買収する爲めの金であつたのです。其の金は全部使かつたのです。  
 返すにも返されないので。死に面して諸君に御願ひする事は、私の死に依つて、諸君は何等かの「ヒント」を得て益々結束を強くして、横暴なる資本家を倒すまで、戦はれん事を(中略)呉れ呉れも諸君に御願ひする次第であります。

(友愛會神戸聯合會様上にて書す)

11.7.27  
 11.7.27

10.7.27  
 11.7.27

出 発 八月十日 徳島縣全園大賞下から各々47

大日本鍼灸師會兵庫縣支部

大正十年七月廿五日

一切票しませぬ

午前七時より同十一時まで(但し八月一日を除く)御座下さる料金は  
 て、住所御氏名を記入し裏面に記す鍼灸療院の中御座の場所へ毎日  
 灸治療を受けたい患者のお方は、此券を各自所屬の争議事務所へ  
 神戸に於ける今回の労働争議に關係ある労働者及び其家族にして、鍼  
 ●有効期限 今回労働争議解決の日迄

氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

神戸労働 争議關係 労働者優待治療券